

新本社竣工式を開催

SRHD

地元経営者ら100人招く

【広島】昭和陸運（荒木栄作社長、広島県福山市）を中核とするSRホールデ



イングス（同代表）は12月25日、新本社の竣工式と併せて祝賀会を開いた。工事関係者をねぎらうとともに、親交のある地元の青年経営者ら約100人を招いて社屋を披露した。

荒木代表は「物流や貿易、不動産、アパレルなど事業は多岐にわたる。多様な人材の価値観や個性を生かせるよう、包容力のある建物

「スタッフと共に新たな歴史を刻みたい」とスピーチする荒木代表（左）

にしたかった」とコンセプトを説明。設計と建築の各社に対して、「素晴らしい空間を提供していただいた。スタッフと共に、新たな歴史を刻んでいきたい」と述べ、感謝状を贈った。

更に今後の抱負について、「成長戦略でここまでは来たが、2019年は原点回帰の1年と捉えている。グループの理念である『デザイン・ユア・ライフ』の下、一丸となってまい進していく」と語った。

広島信用組合の青木嘉孝

理事長による祝辞に続き、広島銀行の小尻郁男常務執行役員が乾杯を発声し祝宴がスタート。ジャズの生演奏が流れる中、荒木氏は出席者一人ひとりにあいさつして回った。（矢野孝明）